

知的障害生徒におけるネットトラブルと発達水準との関係

一心理・発達アセスメントとネットトラブル経験率からの考察ー

〇爲川 雄二 (東北大学大学院教育学研究科)

問題の所在と目的

※お急ぎの方は、赤ベタ部分(目的と結論)のみをご一読ください

情報通信技術 (ICT) の光と影

- ・特別支援教育での多様な応用可能性
- ・障害のある子どもの日常に負の影響が危惧(特に知的障害)
- → 情報モラル習得の必要性

携帯情報端末を所有する知的障害生徒が増加傾向

- ・特別支援学校入学者の増加(特に高等部)
- ・特別支援教育就学奨励費によるタブレットPCの購入補助(高等部)

発達アセスメント(知能検査や発達検査)

・特別支援教育諸学校の多くで、児童生徒の実態把握に利用

発達アセスメントの例 S-M 社会生活能力検査 MMM 田中ビネー知能検査V S-M社会生活能力検査

本報告

知的障害生徒(中学部・高等部)における ネットトラブルと発達水準との関係を考察

ネットトラブルを起こしやすい発達年齢が有るのか? もし有るのなら、それは何故か?

> ※本報告における予備調査・個別調査はいずれも、 回答にあたった教職員には調査の趣旨と個人情報 保護に関する説明に同意した上での回答を求めた。

方法

予備調査(2017年10月~11月)

- 796校に郵送配布・郵送回収(259校; 32.6%)
- 対象の条件: ① 中学部 and/or 高等部 ②知的障害児が通学
- 回答者:情報関係の校務を担当する教員
- ・ 調査内容(1.以外は校内の概況)
 - I. 回答者の属性(校務分掌、勤務年数等)
 - 2. 学校の情報(生徒数、学級数、教職員数等)
 - 3. 生徒における携帯情報端末の所有状況・利用状況
 - 4. 学校での情報モラル指導の実施状況
 - 5. 教員・保護者等の情報モラル研修状況
 - 6. 利用している発達アセスメント

個別調査(2018年11月)

- 156校に郵送配布・郵送回収(50校; 32.1%)※2,221名分
- 対象: 予備調査で下記の発達アセスメントのいずれかを利用 S-M社会生活能力検査 / ビネー / WISC
- 回答者:対象生徒の担任教員
- 調査内容(対象生徒個別の状況)
 - 1. 学年・性別
 - 2. 発達アセスメントの結果
 - 3. 話しことば、読み書きの獲得状況
 - 4. ネットトラブル経験の有無(もし有れば、具体的なトラブル内容)
 - 5. 情報モラル指導モデルカリキュラム表の「中目標」 中学校段階までの45項目に対する「できる/できない」

個別調査票

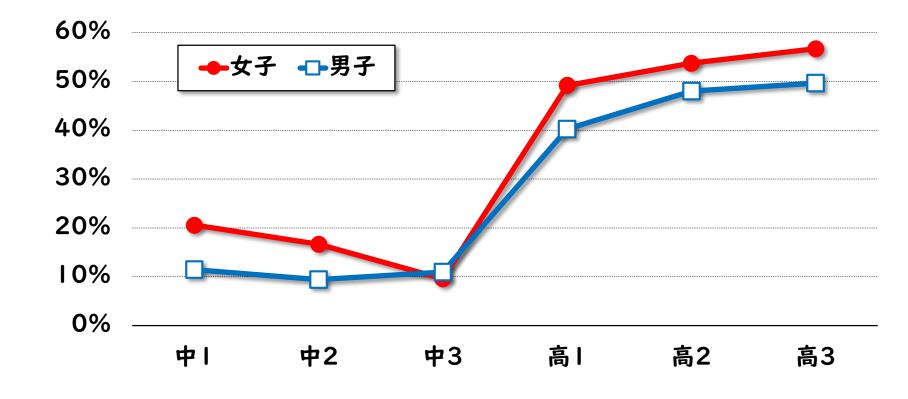


(うら面)

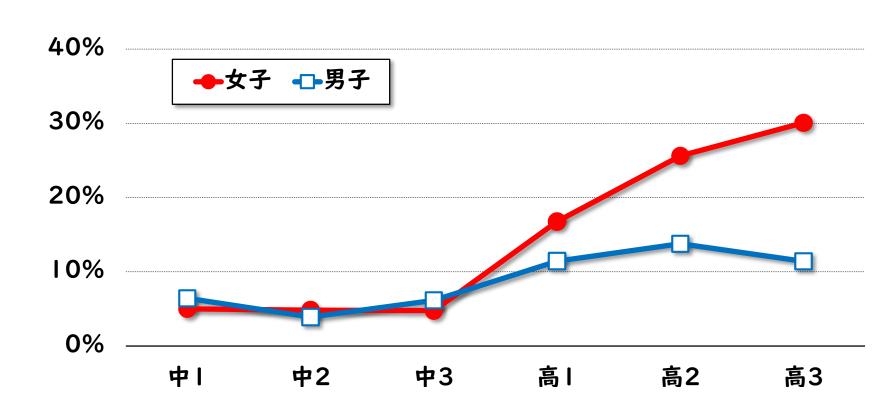
(おもて面)

結果と考察

学年別・男女別 スマートフォン所有率 (n=2,097)



学年別・男女別 ネットトラブル経験率 (n=1,842)



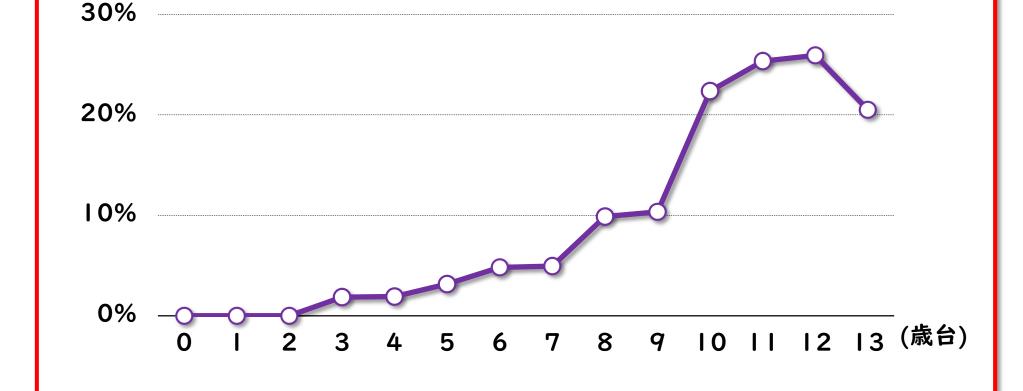
学部別・男女別 ネットトラブルの内訳 (複数回答あり)

学部・性別トラブル	中学部女子 (9名)	中学部男子	高等部女子(109名)	高等部男子
友人関係	44.4%	15.8%	78.9%	68.0%
異性・わいせつ関係	22.2%	21.1%	10.1%	8.0%
金銭関係(課金等)	11.1%	21.1%	1.8%	16.0%
無断使用・不正使用	0.0%	31.6%	6.4%	4.0%
使いすぎ(時間)	11.1%	10.5%	2.8%	8.0%
個人情報の漏洩	0.0%	5.3%	3.7%	5.0%
その他	11.1%	5.3%	3.7%	1.0%

「S-M社会生活能力検査」で得られる社会生活年齢(SA)を軸に、 ネットトラブル経験率を分析

※ 実際の年齢(暦年齢)を軸にしていない点にご注意ください

社会生活年齢 (SA) ごとの ネットトラブル経験率 (n=805)



まとめ

スマートフォン所有率:高等部から急上昇

- 比較的軽度の生徒が高等部から特別支援学校に入学?

ネットトラブル経験率:高等部女子が顕著

- 高等部3年女子は約30%!

- 定型発達児においても、小学校4年生頃から特に女子においてネットや コミュニケーションサービスの利用に悩みや負担を感じている割合が高くなる傾向 (岡山県教育庁, 2015)

ネットトラブルの内容:男女ともに友人関係が顕著 - 男子生徒の金銭関係(ゲームの課金?)、女子生徒の異性関係にも注意が必要?

発達水準とネットトラブルの関係:SA IO歳台からトラブル急増 - 定型発達児においても小学校高学年の23.5%がネットトラブルを経験 (トレンドマイクロ社, 2018)